

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374500516		
法人名	株式会社サロット		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり (さくら)		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日	令和4年10月2日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouId=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouId=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年11月4日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍で、外出や面会など、以前のように行うことができないが、ブログ発信を積極的に行うことで、ご家族様に、日々の生活を見ていただけるようにしています。各ユニットに段ボールや新聞紙で「樹」を作り、季節に合わせて花を咲かせたり、紅葉させて季節を楽しんでいただいています。花や、葉は利用者様と共に作り、飾り付けることで、室内でも季節の移り変わりを楽しんでいただけるように工夫しています。お茶会や栗きんとん作り、おはぎ作りなど、今まで行っていないことにも取り組み、利用者様に楽しんでいただきたいと企画しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広大な緑地が広がる森林公園の傍りに事業所が位置し、四季を通して木々や草花の移り、野鳥のさえずりを感じ取れる閑静な環境にある。木を基調とした平屋建てで、ユニットが回廊式の廊下で繋がっており、中庭には広いウッドデッキがあり四季の変化が楽しめる花の咲く木や実のなる木々、草花が植えられている。開設と共に植えられた栗の木は、たわわな実をつけホームのシンボルツリーともなっている。事業所の理念「この町で自然に暮らし、笑顔の見える介護」を基に、職員一人ひとりのサポート目標を掲げ、入居者に寄り添ったケアを意識して実践に繋げている。町内会主催の夏祭りや運動会の参加、保育園との敬老会や運動会などに相互訪問したり、中学生の職場体験やバンド演奏などのボランティアの受け入れなどはコロナ禍により滞っている。感染に配慮しドライブで海に行ったりイルミネーションや季節の花見など少人数でコロナ禍でもできる外出支援に心がけている。食事は季節の旬の食材を取り入れた献立で毎食手作りし、事前準備や後片付け、盛り付けなどは職員と一緒にしている。毎週木曜日の「考えるメニューの日」には入居者の希望を聞いてお寿司を注文したり、鰻やちらし寿司、おやつなどを作り食べる楽しみに繋げている。栗や柿を収穫して、栗ご飯やおやつとして昔を懐かしみながら食している。居間でテレビを見たり談笑したり、広いウッドデッキで草花の手入れや日向ぼっこをして森林浴をしたり、四季の変化を楽しみながらお茶会などをして穏やかな時を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を掲げ、スタッフが休憩する場所にいつも見られるようにあり、会議等で話し合いに繋がっている。	事業所理念の「この町で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を職員休憩室に掲げ、常に理念を意識して実践に繋げるようにしている。職員の意識の統一を図り、入居者が笑顔で達成感を感じ取られるよう、日々の生活の中で楽しめることを意識した支援に努めている。また、理念に近づくための取り組みをユニット会議等で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は保育園の子供たちが訪問してくれたり、ボランティアの方が来てくださっていたが、コロナ禍で行えていない。花火大会では、近隣の施設の子供達も離れたところから見ると、出来ることを行っている。	町内会に加入し回覧板で情報を得ている。防犯パトロールに参加したり近隣の方と散歩で声を掛け合うなどの交流をしている。コロナ禍により自治会主催の盆踊りや運動会は中止となり、近隣の保育園児との相互訪問も自粛している。また、ボランティアの受け入れや中学生の職場体験なども見合わせている。看護学生や介護学生、実務者研修などの実習生は感染対策をして受け入れ、学びの機会を確保している。来年は開設20周年にあたり、記念行事を家族や地域参加で行う心積もりをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護・介護学生や実務者研修などの実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で対面の運営推進会議は開催していない。落ち付いたらサービスの取り組みを伝え、協力関係を再構築したい。	家族、地域住民、市職員の参加を得て年5回実施しているが、今年度もコロナ禍により書面で開催している。例年では、事業所の運営状況や活動内容を報告したり外部評価の結果の報告や取り組みなどを伝え、参加者からの情報や意見、提案はその場で話し合ったり、職員会議などで協議し運営に活かしている。議事録の発送が遅れているが今後順次届ける予定としている。	新型コロナの影響で開催が困難であり、書面開催となっているが、多くの家族に運営推進会議で地域の情報などが得られる意義のある会議であることを知ってもらうために、家族から好評を得ているお便りやブログなどを利用して運営推進会議の内容や情報を発信し、家族に関心を持って頂けるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいていたときは、意見を聞いたり、夏祭りやクリスマス会などに参加していただき、良い関係を築けるようにしている。	通常であれば、市の担当者が運営推進会議や施設行事に参加しているため、施設の実情やケアサービスの取り組みなどを常に報告や相談ができる体制にあり良好な協力関係を築いている。市主催の研修会などは、コロナ禍ではあるが状況を見ながらZoom研修や対面の研修にも参加している。管理者は地域ケア会議や居場所部会の委員として地域活動の担い手となっているが現在の活動は休止している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開催し、理解している。すぐ前に道路があるため、玄関は施錠をしているが、テラスなどは自由に出入りができるようにしている。	本部と一緒に身体拘束委員会を立ち上げ、拘束に関する研修や勉強会を行っている。年2回身体拘束の研修をする中で拘束に対する意識を高め、スピーチロックに配慮した支援や、束縛感のない環境づくりに努めている。職員休憩室に「身体拘束排除宣言」を掲げ、共有を図っている。職員の見守りの中、自由にテラスに出て山桜や紫陽花、栗の木や花を眺めたり広い回廊式の廊下を散歩したりして、開放的で自由な暮らしをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で学ぶ機会がある。日々の申し送りや、ホーム内で、見過ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もみえる。制度について学ぶ機会はないが、今後研修で理解をしていくように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から家族と話し合いを重ね、説明、理解をしてもらえるよう努めている。改定等は手紙、電話、面会時に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や面会時に伺い、運営に反映できるようにしている。	入居者からは日々の関わりの中から要望などを聞くようにしている。家族からは面会時や電話などで意見や要望を聞くようにしている。コロナ禍により行事などは自粛しているが、家族の要望に応じて玄関先での面会やライン連絡も取り入れ対応している。意見や要望は、記録して会議等で話し合い、職員間で共有してケアや接遇などの改善に役立てている。毎月、担当職員から日々の活動や生活の様子などを手紙にしたり、「さくら・ひまわり通信」やブログを発信して家族に安心を届け信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や週1回のユニット会議や、リーダー会議で意見を提案する機会があり、反映できるように努めてきている。	日々の朝礼やケアの中で気さくに意見交換ができる関係性を築いている。毎月のユニット会議やスタッフ会議では職員からの提案や要望を聞き運営に反映させている。キャリアパス制度を導入し自己評価シートを基に自分のできる事出来ない事を見つけ出しステップアップするための課題を見つけ目標を設定している。また、必要に応じて個別面談を行い将来に対する目標や意見、要望を聞く機会を設け処遇に反映させ、さらなる成長を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個性を生かし、やりがいを持てるよう係や役割を任せてきている。職場環境や条件なども管理者に相談できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じた研修を受ける機会を設けたり、役割を付け育成している。社外研修に進めてくれたり、社員教育に協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会などで情報交換をしていたが、今は電話などで情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人様、ご家族様より要望や不安なことを聞きとれるよう、何気ない会話や行動で、思いをくみ取り、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後に現状の困りごとを伺い、要望などを聞き、良好な関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と御家族の最優先する支援や課題を話し合い、要望を聞き入れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、したいことを見つけ出し、役割を持った生活ができるよう支援している。感謝の気持ちを忘れず、共に生活している大切な者同士という関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、面会は玄関で短時間とさせていただいている。オンライン面会で行っている方も見え、家族様との交流が途切れることがないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、外出はされていませんが、玄関先でお話されることはある。形態をお持ちの方は、直接やり取りをされている。	入居時に生活歴や馴染みの人や場所を把握し、本人が大切にしていた馴染みの関係の継続を支援している。コロナ禍により買い物や家族とお墓参りなどの外出や外食などは自粛しているが、携帯電話で話をしたり、コロナの感染状況を確認しながらではあるが、家族や友人と面会するなどして関係が途切れないよう努めている。日常の食事の準備や洗濯物たたみ、掃除、野菜の収穫、読書など、今までの生活経験が途切れないよう入居者一人ひとりが活躍ができる支援を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティーや行事、普段の生活なので利用者様同士のかかわりを大切にしている。愛称を見ながら座席の配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は転居先に面会に伺うこともあったが、今は行けていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話から本人の希望をくみ取り、添えるように努めている。聞き出すことが難しいときは、ご本人の立場になって検討している。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、入浴時や夜間帯の寛いでいる時に思いや希望を聞くようにしている。日常のさりげない会話や表情など、ケアの中から感じ取ったことは、連絡ノートに記録してユニット会議などで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族より生活歴を聞き、把握し、日々の生活の中で得られた情報を照らしてケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩が好きな方は一緒に出掛けたり、できることを行いながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度ユニット会議で本人の今の課題を話し合い、意見やアイデアをケアプランに活かしている。	日常の様子や入居者や家族の想いを記載したケース記録や連絡ノートの情報を共有している。毎週行われるユニット会議では現状の課題について話し合い、それと同時にモニタリングも行っている。計画作成担当者は得られた情報を基に一年に1回、医師や看護師、薬剤師などの意見や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡ノートを用い情報の共有を図っている。ユニット会議の内容を介護計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況に合わせ、マッサージに入ってもらったり、必要に応じて管理者、ご家族様と相談しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では地域への参加は難しいが、ホーム内の畑で野菜を育て、収穫したり、散歩をしたり、暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診している方もいる。受診が難しくなった方は往診医に変更していただき、適切に医療が受けられるよう支援している。	家族の協力を得てかかりつけ医に継続して受診できる支援をしている。施設の提携医に変更される方は、内科は月2回の往診があり、薬剤師も同席し薬の手配や管理、配薬などの相談にも応じている。週に1回、訪問看護師による健康観察や相談など、日常的に連携を取っている。希望により歯科医の往診治療や口腔ケアも受けられる。身体状況に変化があった場合や緊急時は24時間体制で提携医や協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報は記録に残し、管理者に報告し、必要に応じて主治医に相談している。訪問看護ステーションと連携を取り、週に一度健康観察を行っていただき、相談しあえる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目指し、病院関係者と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期についてのホームの対応などを説明している。状態の変化に応じ、その時々の方針などを確認している。	入居時に、重度化した場合や終末期について事業所のできる支援の説明と指針を明らかにした上で家族の意向書を作成している。重度化する可能性がある場合には、早めに家族に報告し、主治医から方針や状況を説明した上で、医療機関などの利用も視野に入れながら意向を再確認している。家族や医師、看護師と話し合いながら、入居者が安心して生活が送れるよう柔軟な考えで支援し、希望があれば家族と一緒に看取る体制を整えている。職員のメンタルケアについては実践の中で伝え、看取り後に「偲ぶ会」を持ち職員の精神的ケアにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、シュミレーションをしている。伝をの近くにマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員に説明や研修を行っている。備蓄品も各ユニットに分けて備蓄している。	年2回火災や地震を想定し、毎日出火場所を変えながら昼間や夜間の職員体制で防災訓練のシュミレーションを行い、避難時の動線や消火器の配置の確認など書面で行っているが、実際の避難誘導訓練には至っていない。管理者は、何かあれば直ぐに管理者に連絡するよう職員に伝えている。備蓄品は3日分の水や食料、防災用品などを備え、食料は正味期限などを確認し、食事として使用しながら新しい物品とローテーションしている。	想定外の災害が起こることも想定し、事業所の災害時に注意すべき点や避難誘導の大変さも職員が実感しながら、入居者の安全確保などについて消防関係者の意見を求めたり、協力を依頼するなどして、より安全性の高い訓練にしていくことを願いたい。また、機器の使い方の周知、災害時や停電時などのライフライン復旧までの手順やシュミレーションも含め、実際に役立つ訓練をしていく事を願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に応じた声掛けや対応を心がけている。トイレは「食事前の手洗い」と言いかえる等配慮している。	人生の先輩として尊重し、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努め、個々の生活スタイルや思いを把握した支援に努めている。また、入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮し、それぞれの立場を尊重したケアや言葉かけに配慮し、職員の対応に差が生じないよう心がけている。お風呂や日々の会話など男性が窮屈な思いをしないような配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が普段から言いやすい環境や声掛けをし、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気持ちの変化に合わせた声掛けをし、その方のペースを大切に、「今」を大切に支援していくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に着替えを一緒に準備したり、散歩のときに帽子を選んでもらうなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて食べたいものを提供できるようにしている。野菜を切ったり、盛り付けや洗い物など、出来ることを一緒に行っている。	食材はまとめて業者に発注し、季節の旬の食材を取り入れた献立で毎食手作りしている。野菜の根取りや切るなどの準備や後片付けなどは、その人の能力に合わせて職員と一緒にしている。毎週木曜日の「考えるメニューの日」には、入居者の希望を聞いてお寿司を注文したり、刺身定食や鍋料理、豆ごはんなど楽しめる食事作りに努めている。平常時であれば、職員と食材の買い物をしたり職員も一緒に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。おせち料理や鏡開きの餅入りのお汁粉、ひな祭りの押しずしやおこしもの作りなどが楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶以外にスポーツドリンクやゼリーなど、水分が摂りやすいよう工夫をしている。毎食の食事量を把握し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて介助を行ったり、訪問歯科に診察していただき、適宜歯科衛生士にクリーニングしてもらっている方も見える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、個々に合わせた声掛けや誘導をし、失敗を減らしたり、状況に応じたパットの使用をしている。	排泄状況はチェック表で確認し、その人の排泄パターンを把握している。入居者の表情や行動から察知し、さりげない声かけやタイミングを工夫し、その人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間も、安眠を妨げない配慮と尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や乳製品を提供したり、腸を動かす体操やこまめに水分を取る等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ずつゆっくり入っていただけるようにしている。季節に合わせて柚子湯や、しょうぶ湯にし、楽しんでいただけるようにしている。	入浴は2日に1回を目安にしているが、入居者の希望に合わせて毎日の入浴や一人での入浴、2人介助の入浴など個々状態に沿った支援に心がけている。浴室をリニューアルし、ゆったりとした浴槽で温まったり冬季のヒートショックにも配慮した環境が整えられている。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を味わう工夫もしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方には昼寝をしていただいている。体調に合わせた休息を取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストがカウンターに置いてあり、いつでも見れるようになっている。体調に合わせて便のお薬や頓服のコントロールを行っている。薬でわからないことは調剤薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や花見ドライブなど行っている。ホーム内で、ゲームや歌を歌ったりし、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前のような外出支援は出来ないが、海を見に行ったりできることの支援を行っている。桜やコスモスの花見ドライブや、イルミネーションドライブなど、今までとは違う形で外出支援を行っている。	お天気の良い日には体調にあわせて日常的に散歩に出掛けられる環境にある。また、テラスに出て日向ぼっこや落ち葉の掃除をするなど外気に触れる事を大切にしている。コロナ禍で外出の自粛もあるが、感染に配慮しドライブで海に出掛けたり、イルミネーションや季節の花見など機会あるごとに少人数での外出支援に心がけている。今後コロナの感染状況を見ながら家族の協力を得ながら季節の花見や水族館、テーマパークなどの外出支援や誕生日外出などができる日が来ることを心待ちにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理ができる方や、持っているとお心ずる方は、持っていていただいている。ご家族から預かっている財布を必要な時に持って出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に使用されている。電話を掛けたいときにスタッフに伝えてくださり、かけている方も見える。手紙や年賀状のやり取りをされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花を植え、廊下に行事の写真を飾り、楽しんでいただけるようにしている。「樹」を作り、春には桜、若葉、など、季節を楽しんでいただけるようにしている。	建屋全体が、木をふんだんに使った温もりのあるログハウス調で、天井が高く明るく風通しが良い。様々な木々が植えられ、窓からは四季の移ろいが楽しめる。洒落た小上がり和室のある居間と食堂がワンフロアとなっている。廊下には行事の写真を貼って会話を促し、回想法の一助としている。玄関や居間には入居者と一緒に作成したタペストリーや油絵などを飾り落ち着いた大人の生活空間としている。入居者はそれぞれのお気に入りの場所でテレビを見たり、テラスで日向ぼっこやお茶をしたりして寛いでいる。毎日の掃除やテラスの落ち葉の掃き掃除をしたりして住み心地の良い環境でのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが置いてあり、利用者同士が座ってお話をされている。中庭にいつでも出れるので、花や野菜や栗の木が見れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇や、思い出の写真などをおいてもらい、居心地よく過ごせるように努めている。	居室前に写真付きの表札を掲げ自分の住まいとしての環境を整えている。クローゼットとエアコンが備え付けられ、居室によってはベンチがあるなど個性のある設えとなっている。入居者の生活習慣を大切に、畳に炬燵の生活スタイルやその方に応じた寝具で対応している。使い慣れた筆筒や仏壇、椅子、テレビ、などを持ち込み、家族の写真など好みのものを飾って安心して落ち着ける環境を整えている。清潔保持と安全に配慮して居心地のよい生活空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日時が分かるように日めくりカレンダーや居室の入り口にはご本人の名前や顔写真のプレートがあり、わかりやすいよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374500516		
法人名	株式会社サロツト		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり (ひまわり)		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日	令和4年10月2日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouyoCd=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouyoCd=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和4年11月4日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍で、外出や面会など、以前のように行うことができないが、ブログ発信を積極的に行うことで、ご家族様に、日々の生活を見ていただけるようにしています。各ユニットに段ボールや新聞紙で「樹」を作り、季節に合わせて花を咲かせたり、紅葉させて季節を楽しんでいただいています。花や、葉は利用者様と共に作り、飾り付けることで、室内でも季節の移り変わりを楽しんでいただけるように工夫しています。お茶会や栗きんとん作り、おはぎ作りなど、今まで行ってないことにも取り組み、利用者様に楽しんでいただきたいと企画しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広大な緑地が広がる森林公園の傍りに事業所が位置し、四季を通して木々や草花の移り、野鳥のさえずりを感じ取れる閑静な環境にある。木を基調とした平屋建てで、ユニットが回廊式の廊下で繋がっており、中庭には広いウッドデッキがあり四季の変化が楽しめる花の咲く木や実のなる木々、草花が植えられている。開設と共に植えられた栗の木は、たわわな実をつけホームのシンボルツリーともなっている。事業所の理念「この町で自然に暮らし、笑顔の見える介護」を基に、職員一人ひとりのサポート目標を掲げ、入居者に寄り添ったケアを意識して実践している。町内会主催の夏祭りや運動会の参加、保育園との敬老会や運動会などに相互訪問したり、中学生の職場体験やバンド演奏などのボランティアの受け入れなどはコロナ禍により滞っている。感染に配慮しドライブで海に行ったりイルミネーションや季節の花見など少人数でコロナ禍でもできる外出支援に心がけている。食事は季節の旬の食材を取り入れた献立で毎食手作りし、事前準備や後片付け、盛り付けなどは職員と一緒にやっている。毎週木曜日の「考えるメニューの日」には入居者の希望を聞いてお寿司を注文したり、鰻やちらし寿司、おやつなどを作り食べる楽しみに繋げている。栗や柿を収穫して、栗ご飯やおやつとして昔を懐かしみながら食している。居間でテレビを見たり談笑したり、広いウッドデッキで草花の手入れや日向ぼっこをして森林浴をしたり、四季の変化を楽しみながらお茶会などをして穏やかな時を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「この街で自然に暮らし 笑顔の見える介護」を掲げ、スタッフが休憩する場所にいつも見れるようにあり、会議等で話し合いに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は保育園の子供たちが訪問してくれたり、ボランティアの方が来てくださっていたが、コロナ禍で行えていない。花火大会では、近隣の施設の子供達も離れたところから見るなど、出来ることを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護・介護学生や実務者研修などの実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で対面の運営推進会議は開催していない。落ち付いたらサービスの取り組みを伝え、協力関係を再構築したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいていたときは、意見を聞いたり、夏祭りやクリスマス会などに参加していただき、良い関係を築けるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開催し、理解している。すぐ前に道路があるため、玄関は施錠をしているが、テラスなどは自由に出入りができるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修で学ぶ機会がある。日々の申し送りや、ホーム内で、見過ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もみえる。制度について学ぶ機会はないが、今後研修で理解をしていくように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から家族と話し合いを重ね、説明、理解をしてもらえるよう努めている。改定等は手紙、電話、面会時に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や面会時に伺い、運営に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や週1回のユニット会議や、リーダー会議で意見を提案する機会があり、反映できるように努めてくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個性を生かし、やりがいを持てるよう係や役割を任せてくれている。職場環境や条件なども管理者に相談できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じた研修を受ける機会を設けたり、役割を付け育成している。社外研修に進めてくれたり、社員教育に協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会などで情報交換をしていたが、今は電話などで情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人様、ご家族様より要望や不安なことを聞きとれるよう、何気ない会話や行動で、思いをくみ取り、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後に現状の困りごとを伺い、要望などを聞き、良好な関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と御家族の最優先する支援や課題を話し合い、要望を聞き入れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、したいことを見つけ出し、役割を持った生活ができるよう支援している。感謝の気持ちを忘れず、共に生活している大切な者同士という関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、面会は玄関で短時間とさせていただいている。オンライン面会で行っている方も見え、家族様との交流が途切れることがないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、外出はされていませんが、玄関先でお話されることはある。形態をお持ちの方は、直接やり取りをされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティーや行事、普段の生活なかで利用者様同士のかかわりを大切にしている。愛称を見ながら座席の配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は転居先に面会に伺うこともあったが、今は行けていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話から本人の希望をくみ取り、添えるように努めている。聞き出すことが難しいときは、ご本人の立場になって検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族より生活歴を聞き、把握し、日々の生活の中で得られた情報を照らしてケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩が好きな方は一緒に出掛けたり、できることを行いながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度ユニット会議で本人の今の課題を話し合い、意見やアイデアをケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡ノートを用い情報の共有を図っている。ユニット会議の内容を介護計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況に合わせ、マッサージに入ってもらったり、必要に応じて管理者、ご家族様と相談しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では地域への参加は難しいが、ホーム内の畑で野菜を育て、収穫したり、散歩をしたり、暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診している方もいる。受診が難しくなった方は往診医に変更していただき、適切に医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報は記録に残し、管理者に報告し、必要に応じて主治医に相談している。訪問看護ステーションと連携を取り、週に一度健康観察を行っていただき、相談しあえる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目指し、病院関係者と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期についてのホームの対応などを説明している。状態の変化に応じ、その時々意向などを確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、シュミレーションをしている。伝をの近くにマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員に説明や研修を行っている。備蓄品も各ユニットに分けて備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に応じた声掛けや対応を心がけている。トイレは「食事前の手洗い」等と言いかえる等配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が普段から言いやすい環境や声掛けをし、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気持ちの変化に合わせた声掛けをし、その方のペースを大切に、「今」を大切に支援していくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に着替えを一緒に準備したり、散歩のときに帽子を選んでもらうなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて食べたいものを提供できるようにしている。野菜を切ったり、盛り付けや洗い物など、出来ることを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶以外にスポーツドリンクやゼリーなど、水分が摂りやすい工夫をしている。毎食の食事量を把握し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて介助を行ったり、訪問歯科に診察していただき、適宜歯科衛生士にクリーニングしてもらっている方も見える。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、個々に合わせた声掛けや誘導をし、失敗を減らしたり、状況に応じたパットの使用をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や乳製品を提供したり、腸を動かす体操やこまめに水分を取る等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ずつゆっくり入っていただけるようにしている。季節に合わせて柚子湯や、しょうぶ湯にし、楽しんでいただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方には昼寝をしていただいている。体調に合わせた休息を取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストがカウンターに置いてあり、いつでも見れるようになっている。体調に合わせて便のお薬や頓服のコントロールを行っている。薬でわからないことは調剤薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や花見ドライブなど行っている。ホーム内で、ゲームや歌を歌ったりし、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前のような外食支援は出来ないが、海を見に行ったりできることの支援を行っている。桜やコスモスの花見ドライブや、イルミネーションドライブなど、今までとは違う形で外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理ができる方や、持っていると安心する方は、持っていていただいている。ご家族から預かっている財布を必要な時に持って出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に使用されている。電話を掛けたいときにスタッフに伝えてくださり、かけている方も見える。手紙や年賀状のやり取りをされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花を植え、廊下に行事の写真を飾り、楽しんでいただけるようにしている。「樹」を作り、春には桜、若葉、など、季節を楽しんでいただけるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが置いてあり、利用者同士が座ってお話をされている。中庭にいつでも出れるので、花や野菜や栗の木が見れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇や、思い出の写真などをおいてもらい、居心地よく過ごせるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日時が分かるように日めくりカレンダーや居室の入り口にはご本人の名前や顔写真のプレートがあり、わかりやすいよう工夫している。		